

茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査 (2012年度)について

樋口公平¹⁾ 平田稔²⁾

はじめに

タゲリ *Vanellus vanellus* (Linnaeus, 1758) は、チドリ科の冬鳥で、神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。また茅ヶ崎版レッドデータリスト(2006)では絶滅危惧種に位置づけられている。

このような状況の背景として越冬地の生息環境が悪化していることが原因の一因と考えられる。

タゲリの好む越冬地の環境は、平地の見晴らしのよい水田などで、特に湿田が好まれている。

餌は、水田の土の中のミミズや昆虫類などを主として、他にドジョウやトウキョウダルマガエルなどの記録もある。

これらの越冬地環境である県内の水田は、都市化の影響により著しく減少している。茅ヶ崎市も例外ではなく、作付面積は平成元年 113ha、平成 17 年には 53ha と 47%に減少している(神奈川県環境農政部農業振興課作成資料、茅ヶ崎市 2005 年農林業センサスによる)。さらに平成 22 年には 43ha になり(2010 年世界農林業センサス 神奈川県)、5 年で 81%に減少、平成元年からみると 22 年間で 38%になっている。

県内のタゲリは、10 数年前までは横浜市や三浦市に飛来していたが、水田の減少と共にすでに飛来が途絶えており、今回の調査地である茅ヶ崎市、藤沢市、寒川町の湘南地域の越冬地は、東京以西においては東京に最も近い越冬地となっている。

タゲリ一斉調査会では減少し続けているタゲリの越冬状況を把握し、保護していくためのデータ収集を目的として、2000 年から毎年茅ヶ崎市、寒川町、藤沢市でタゲリの越冬個体数や移動ルートの調査を続けてきた。2011 年度から三翠会が主催を引き継ぎ 2012 年も調査を継続実施した。

以下にその結果を報告する。

※「タゲリ一斉調査」の構成メンバー

三翠会、茅ヶ崎野外自然史博物館、日本野鳥の会神奈川支部、神奈川県自然観察指導員連絡会、さむかわエコネット、地域の市民などの有志

1. 調査日時

2012 年 12 月 16 日 10:00~12:00

調査日は例年通り 12 月の中旬とした。

2. 調査地点

合計 10 か所の調査地点を下記のように設置した。

市境をまたがるところはカッコで市町村名を付記する。

- ・茅ヶ崎市(2 か所)
西久保大町西側・北側 (調査本部), 赤羽根
- ・寒川町(4 か所)
一之宮西・八丁目, 一之宮東・大曲三丁目, 大曲四丁目・田端, 小動旭橋北
- ・藤沢市(4 か所)
大庭, 宮原大昭橋北側, 宮原大昭橋南側, 宮原久保田橋

これらの定点は茅ヶ崎市、藤沢市、寒川町で過去にタゲリの飛来の情報があった場所や、飛来の可能性のある場所、今季に確認情報のあるところを選んだ。また地形としては見晴らしのよい水田地帯を選んでいる。

1)調査を取り止めた地点

打戻 (藤沢市) ・芹沢新道橋付近, 芹沢農地改良碑付近, 下寺尾西方・一つ橋, 下寺尾北方・寺尾橋・岡田 (寒川町) の 4 調査地点は、調査を取り止めた。これは過去数年間タゲリ飛来情報が無いことや調査員減のため、より確認情報の多い宮原大昭橋周辺を重点地区とし、調査精度を上げる為である。

2)巡回調査地点の追加・継続設置

調査員減であることから前年巡回調査地点であった一之宮西・八丁目、一之宮東・大曲三丁目に加え、田端・大曲四丁目も、巡回調査地点とし、引き続き

効率的に調査できるようにした。

3. 調査方法

以下のとおり従来と同様の方法を取った。

1) 定刻一斉調査

10:00, 10:30, 11:00, 11:30, 12:00 に、各調査地点で一斉にタゲリの個体数を数える。

2) 移動ルート調査

各調査地点でタゲリの飛来、飛去、通過を確認した場合その時刻、移動方向、羽数を隨時本部に携帯電話で連絡し、本部はその移動先と思われる調査地点に連絡する。このことにより、タゲリの移動ルートを掴む。

各調査地点には、タゲリの識別能力の高いリーダーを含む1~3人を配置した。

観察には双眼鏡、望遠鏡を使用した。

3) 巡回調査

広い定点を少人数で調査する方法として、定点のエリアを満遍なく巡回する方法。タゲリを発見した場合はその場に張り付き定刻一斉調査にする。

4. 調査参加者

【西久保大町西・北（調査本部）】鈴木國臣

【赤羽根】吉田章子

【一之宮西・八丁目】滝田紘一、斎藤光男

【一之宮東・大曲三丁目】（滝田紘一、斎藤光男）

【田端・大曲四丁目】（滝田紘一、斎藤光男）

【小動旭橋】石井大輔、熊澤さえ子

【宮原大昭橋北側】平岩宏司、山下一男

【宮原大昭橋南側】樋口公平、佐藤守

【宮原久保田橋】平田稔、伊藤修二郎、宮向井勝

【大庭】濱伸二郎、浅野牧子

地点名の次に書かれている名前の方が各地点のリ

表 1. 時間別確認個体数（タゲリが確認された地点のみ）

| 調査地点 | 調査時間 | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 10:00 | 10:30 | 11:00 | 11:30 | 12:00 |
| 藤沢市宮原・大昭橋南側 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 合計 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |

ーダー役とした。

5. 調査結果（表 1）

1) タゲリが確認された調査地点

以下の地点で確認された。

藤沢市：宮原大昭橋南側で 3 羽

2) 調査エリアに渡来している個体数の推定

定刻一斉調査の結果は表 1 のとおりである。3 羽が確認され続け、少なくとも 3 羽以上が渡来していることが確認された。

3) 移動ルート調査の結果

当初、藤沢市宮原大昭橋南側調査地点で確認された 3 羽は、その後も周辺を移動することも飛去することもなく同調査地点で確認でき、調査は終了した。

6. 考察

1) 地域別の状況について

今回確認された藤沢市宮原の目久尻川流域の水田地帯は、2008 の調査で初めて確認され、5 年連続して今年も確認された。過去に不定期に確認情報があり、過去の一斉調査でも何回か定点としたことがあったが確認されていなかった。この水田地帯は面積も広く、エリア内の休耕田や建造物も少ないため見渡しのよいタゲリの好む環境で安定的な越冬地となっているが、休耕田が植木の畑などに転作され始めたところも出てきている。

一之宮、田端、大曲、萩園、西久保は、一帯となった水田エリアで、過去から中心的な越冬地となっていた。確認されていたが、2008 年初めてこの一帯からの記録が途絶えてしまった。2009 年の調査では記録が復活したがそれ以降今まで記録が途絶えている。参考として調査の半月後の元日と 2 日に西久保で 1 羽記録された。

一之宮、田端、大曲、萩園、西久保は、一帯となつた水田エリアで、過去から中心的な越冬地となつてゐた。2007 年の調査までは安定的にこの地点で確認されてゐたが、2008 年初めてこの一帯からの記録が途絶えてしまった。2009 年の調査では記録が復活したがそれ以降今回まで記録が途絶えている。参考として調査の半月後の元日と 2 日に西久保で 1 羽記録された。

岡田、下寺尾両調査地点では 2005 年の調査では記録されたが、2006 年以降今回も未確認。

芹沢の小出川上流域は、2001 年度から毎年交互に確認、未確認を繰り返し 2005 年は確認できたが、2006 年以降連續して今年も未確認となつた。赤羽根は 2009 年 2011 年の渡りの初期に確認情報があり、定点として同年から復活したが今回も記録は得られなかつた。以前は記録があり、土地改良事業が始まつてから見られなくなつたが、土地改良後に水田がエリアの中央付近にまとめられ、途絶えていた稲作も始まつてゐる。水田に湿り気もあるため今後も可能性がある場所として考える。

引地川水系の大庭については渡りの時期の初期に通過個体が立寄る情報はあるが、一斉調査では 2002 年度の記録を最後に今回も記録は無かつた。

記録地点については 2006 年、2007 年、2008 年には 1 か所でしか確認できなくなつてゐたが 2009 年には 2 か所、2010 年以降今年度も 1 か所となつた。

2) 確認羽数の推移について(表 2)

2000 年度 65 羽以上、2001 年度 50 羽以上、2002 年度 25 羽以上、2003 年度は 36 羽以上、2004 年度は 32 羽以上、2005 年度は 26 羽以上、2006 年度は 18 羽以上、2007 年度 13 羽以上、2008 年度 7 羽以上、2009 年 17 羽以上、2010 年 9 羽以上、2011 年 5 羽以上となり、2012 年 3 羽以上と減少の一途をたどつてゐる。

また、参考として約一か月後の 2012. 1. 13 に今回と同一地点で 6 羽が確認され(平田私信)3 羽増えたことがわかつた。

3) タゲリの減少と保護について

タゲリの確認地点が 2010 年に続き 3 年連續 1 か所となり、宮原地区が相模川以東の県内最後の越冬地

となつてゐる。その宮原地区も数が減る傾向が出でいる。今まで中心の越冬地であった茅ヶ崎市を含む小出川中流(一之宮、田端、大曲、萩園、西久保地区)での記録が 3 年連續記録が途絶えた。

宮原地区は最後に残つた相模川以東の越冬地であるが、当地も休耕田の増加や、水田から庭木の栽培に転作されるところが出てきており、タゲリの生息環境としては悪化の傾向がある。都市近郊の水田は水生生物や野鳥など多くの生き物を育む場所だけではなく、保水力による洪水の抑止や、ヒートアイランド現象の抑制や癒しなどの空間として人にも役立つ機能を持つ。茅ヶ崎市では西久保の市街化調整区域の水田に遊水地としての助成金が出る仕組みができたが、同様の政策が他市町にも展開されることを望む。

参考文献

- 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 鳥類.
- 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 140-156.
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, 鳥類. 233-264.
- 茅ヶ崎市, 2006. 茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告「自然環境評価マップで茅ヶ崎の自然を見てみよう」, 36-38.
- 樋口公平・岸一弘, 2002. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2000 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (10):29-31.
- 樋口公平・岸一弘, 2003. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2001 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (11):17-19.
- 樋口公平・岸一弘, 2004. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市, 横浜市戸塚区におけるタゲリ一斉調査(2002 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (12):25-27.
- 樋口公平・岸一弘, 2005. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2003 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (13):1-3.

- 樋口公平・岸一弘, 2006. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2004 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (14):1-3.
- 樋口公平・岸一弘, 2007. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2005 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (15):11-13.
- 樋口公平, 2008. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2006 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (17):1-3.
- 樋口公平, 2009. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2007 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (18):1-3.
- 樋口公平, 2010. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2008 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (19):11-14.
- 樋口公平, 2011. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2009 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (20):69-72.
- 樋口公平, 平田稔 2012. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2010 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (21):57-60.
- 樋口公平, 平田稔 2013. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタグリ一斎調査(2011 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (22):13-16.

1) 三翠会・日本野鳥の会神奈川支部

2) 三翠会・日本野鳥の会神奈川支部